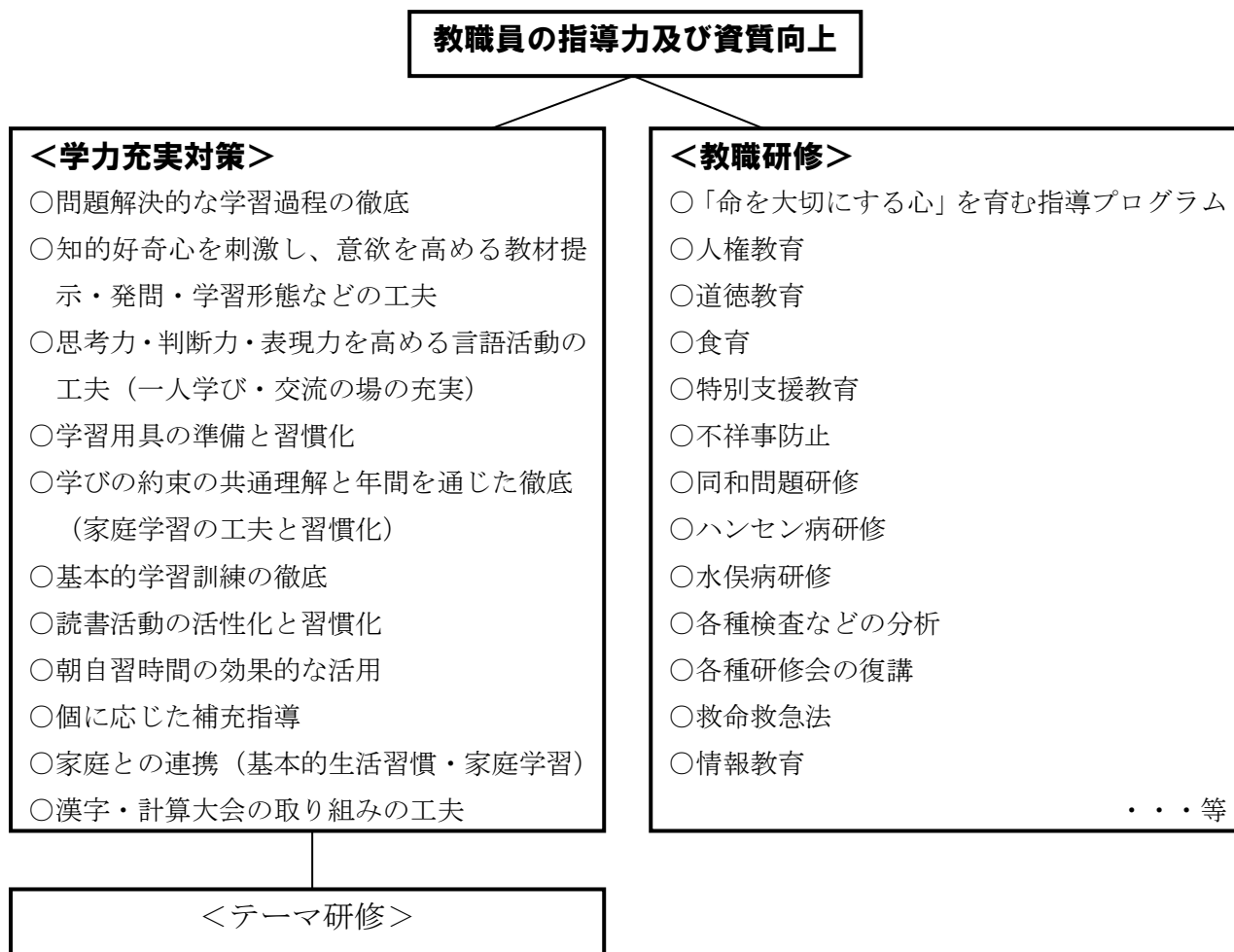


平成29年度 校内研修

1 研修全体

校内研修は、学力充実対策・教職研修・テーマ研修の3つから構成する。



2 テーマ研修

（1）研究主題について

児童が主体的に学びながら、考え表現する力を付ける授業の工夫改善

～国語科「読むこと」における言語活動の充実を通して～

（2）研究主題のとらえ方

①主体的に学ぶとは

一人一人が、これまでの既習内容や生活経験、及び他教科での経験及び知識から、課題に対して見通しを持ち、目的意識を持って取り組み、互いの考えを伝え合いながら、さらに自らの考えを広げ深めていこうとする姿である。

（具体的な児童の姿）

- つかむ段階で、学習の見通しがたち、何を学習するか分かっている。
- 課題解決のためにこれまでの学習経験を生かして、取り組んでいる。
- 叙述に即して、登場人物の気持ちを考え、ノートや吹き出し等にまとめている。
(教科書の言葉を使って、自分の言葉で、例を用いて、ことわざを用いて)
- 文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章を引用したり要約したりしている。
- 自分の考えを進んで発表している。
- 進んで課題に関する本を読んでいる。
- 進んで語句を調べている。

②「考え表現する力」とは

一人学びを通して、課題解決のために、文章を読み、根拠を持って自分の考えを書くことができる力である。

さらに、課題に対して、自分の考えを持って、互いの考えを出し合い、友だちの考えと比べながら、自分の考えを高めることができる。また、国語の授業で学習したことを生かして、他の場面でも考えて学習したり行動したりできる力である。

(具体的な児童の姿)

- 手がかりとなる大切な語句や叙述から分かることを書くことができる。
- 課題に対して自分なりの思いを、根拠を持って書くことができる。
- 書いたことを根拠を持って発表することができる。
- 友だちの考えを聞いて、共感したり、質問したり、付け加えをしたり、まとめたりしている。

③「読むこと」とは

学習指導要領解説「国語編」の「C読むこと」には6つの指導事項があげられている。そのどれも指導していくことが大切であるが、本研究では、特に「自分の考えの形成及び交流に関する事項」にスポットを当てていく。

各学年における「C読むこと」の指導事項

◎自分の考えの形成及び交流に関する指導事項

<第1学年及び第2学年>

エ 文章の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。

オ 文章の内容と自分の経験とを結びつけて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。

<第3学年及び第4学年>

エ 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすること。

オ 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付くこと。

<第5学年及び第6学年>

オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。

④「言語活動の充実」とは

《学習指導要領第1章 総則 第4指導計画の作成などに当たって配慮すべき事項》

各教科の指導に当たっては、児童（生徒）の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、基礎的・基本的な知識及び技能の活用を図る学習活動を重視するとともに、言語に対する関心や理解を深め、言語に関する能力の育成を図る上で必要な言語環境を整え、児童（生徒）の言語活動を充実すること

◎国語科における言語活動の充実－4つの原則！

- ①本単元で付けたい力を見極める（実生活で生きる力、年間を通した指導事項選定）
- ②付けたい力にぴったりの言語活動の選定（言語活動自体の教材研究が必要）
- ③言語活動を単元を貫いて位置づける。（言語活動に必要な能力を単元を通して指導）
- ④児童の「大好き！」「知りたい、伝えたい」を重視（主体的思考・判断を活発に）

文部科学省 教科調査官 水戸部修治氏 資料より

言語は知的活動の基盤であり、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもある。そこで、考えるためには、自分の中で思考判断する言語、考えたことを表現（伝える）する言語、さらに表現されたことを理解・判断する言語が不可欠である。また、その言語の力を発揮したいと思うような活動も不可欠である。

単元で付けたい力を見極め、子どもたちの実態や願いに応じた言語活動を展開していくことが、言語活動の充実だと考える。また、授業だけでなく、読書活動や話し合い活動など、言語環境の充実も図っていく必要がある。

（3）研究の仮説

（仮説1）

具体的なゴールを設定し、児童が、学習したことをどのように活用していくのかを意識できるならば、児童は見通しを持って主体的に学び、考え表現する力をつけていくことができるであろう。

（仮説2）

一人学びの仕方や交流の仕方を工夫すれば、自分の考えを深め、主体的に考え表現する力をつけることができるであろう。

（仮説3）

日常の指導の中でも、言語活動の充実を図れば、考え表現する力を付けることができるであろう。

（4）研究の視点

仮説1 「目的を明確にした言語活動」について

視点1 単元を貫く言語活動の設定

- ・単元ゴールの設定
- ・単元シートの作成

視点2 評価の工夫

- ・自己評価の工夫（めあての達成度）
- ・国語日記
- ・座席表の活用

仮説２ 「考えを深める一人学び、交流の仕方」について

視点１ 一人学びの工夫

- ・発達段階に応じたまとめ方に対する手立て（書き出しの文や選択肢の提示など）
- ・UDに基づいた指導
- ・言バンクコーナーの設置
- ・言バンク集の活用
- ・ノート指導

視点２ 交流の手立ての工夫

- ・発問の工夫
- ・発表の仕方、話し合いの進め方の掲示
- ・思考ツールの活用
- ・ペア・グループ交流の設定
- ・机配置、グルーピングの工夫

仮説３ 日常の実践

視点１ ・並行読書

- ・話し方・聞き方の工夫（１分間スピーチの充実、集会での原稿なし発表）
- ・朝自習の工夫（すいすい音読、詩の音読発表、視写タイム、お話タイム）
- ・国語辞典の活用
- ・学力充実の時間の取り組み（ゆうチャレンジ問題、漢字大会）
- ・家庭学習（音読の習慣化、日記指導、漢字）